

令和元年第四回定例会 提案理由説明書

令和元年第四回定例県議会の開会にあたり、県政諸般の報告を申し上げ、あわせて今回提出しました諸議案について説明申し上げます。

1 県政諸般の報告

今年八月の九州北部の記録的大雨をはじめ、九月の台風十五号及び十七号、さらに先月の台風十九号などにより、全国各地で甚大な被害が発生しました。亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

今年の災害もそうですが、近年、数十年に一度と言われるような大規模自然災害が毎年のように発生しています。また、南海トラフ地震・津波による災害リスクも高まっています。このため国は、昨年、喫緊の課題として、「防災・減災、国土強靱化のための三か年緊急対策」を策定し国土強靱化に取り組んでおり、本県も、これらを活用して、抜本的な県土の強靱化に取り組んでいるところです。

(1) ラグビーワールドカップ2019大分開催を終えて

こうした中、一生に一度、ラグビーワールドカップが開催されました。アジア初の開催となった今大会では、日本代表の目を見張る大活躍や世界最高峰のプレーの数々に、日本中が沸き上がりました。

本県においても、昭和電工ドーム大分に五日にわたって、延べ約十七万三千人の観客が来場し、国際色豊かな声援が響き渡りました。この熱気は試合会場にとどまらず、ファンゾーンやおもてなしエリアなど、県内各地に広まって、県民とともに、ラグビーの魅力や感動を分かち合いました。

大会期間中は、大会ボランティアの方々の心を込めた対応ばかりでなく、老若男女を問わず、県民の皆さんに、明るく温かく、内外からの来客を迎えていただきました。特に、小学生はアンセムを合唱し、中学生は英語を交えてウェルカムカードをつくり、高校生は英語ガイドに挑戦するなど、次代を担う若い世代が、努力や工夫をしながら、世界の人々と触れ合ったことは、大変良かったと思います。また、交通総量抑制等でも、関係の皆さんに大変御協力をいただきました。

今回、県民の皆さんがそれぞれに思いを凝らし、そして心を一つにして、ビッグイベントを大成功のうちにやり遂げたことは、我々の誇りと自信となり、かけがえのないレガシーとなりました。加えて、欧米や大洋州からの観光客への県内各地でのおもてなしの取組は、SNSや海外メディア等を通じて、大分の魅力を国内外にPRする機会にもなり、インバウンドの多角化を前に進めました。

ラグビーワールドカップの成功に向けて、県民の皆さんに大変な御尽力をいただいたことに応えるかのように、来年七月には、大分で日本代表対イングランド代表戦が開催されることになり、うれしい限りです。

こうしたラグビーワールドカップでの成功は、地方創生を最大の課題として取り組んでいる我々にとって、大きな後押しとなりました。

(2) 人口ビジョンについて

その地方創生について、本県が平成二十七年から取り組んできたまち・ひと・しごと創生総合戦略が今年度、最終年となります。このため、市町村とも連携しながら、この五年間を振り返りつつ、将来を見据えた新たな総合戦略を策定しているところであり、今定例会において、概要を報告することとしています。

その前提として、人口の将来展望を示す人口ビジョンの検証も進めているところですが、本県の人口は、今年十月一日現在、百十三万四千人で、この一年間の人口動態は、全体で八千五百十二人の減少となりました。その内訳は、自然減六千七百十一人、社会減千八百一人で、全体の約八割が自然減によるものでした。

この自然減の傾向は、現行ビジョンの見通しに概ね沿った動きでしたが、他方、社会減については、二〇二〇年の増減均衡を目指すビジョンの想定との乖離が拡大しています。

このため、新たに目指すビジョンでは、まず合計特殊出生率について、現行同様、二〇三〇年に二．〇、二〇四〇年に二．三まで高めます。そして社会増減については、残念ながら増減の均衡時期を五年延ばして、二〇二五年までに均衡させます。これらによって、本県の将来人口を、今世紀末までには増加に転じさせ、九十万人から百万人程度を維持することを目指したいと考えています。

この新たな人口ビジョンの実現に向けて、中間見直し後の安心・活力・発展プラン二〇一五及び第二期総合戦略による施策を積極的に展開し、自然増と社会増の両面で、人口減少に歯止めをかけ、地方創生の取組を前に進めてまいります。

まず、自然増対策では、人を大事にし、人を育てるという観点から、引き続き、三つの日本一を目指します。「子育て満足度日本一」では、出会いから結婚、妊娠、出産、育児まで、切れ目のない、きめ細かな支援を行ってまいります。今議会に提案させていただいた補正予算案では、県内の周産期医療体制を緊急的に確保するため、県立病院の新生児集中治療室の病床を三床増床することとしています。あわせて、その受入に必要な医師や看護師等を増員し、体制の強化も図ってまいります。また、「健康寿命日本一」を目指し、引き続き、県民総ぐるみでの健康づくりに取り組むとともに、「障がい者雇用率」では、早期の日本一奪還に向け、知的及び精神障がい者の職場定着に力を入れます。

社会増対策では、まずは、仕事をつくり、仕事を呼び込むことです。農林水産業の構造改革を進め、商工業、観光・ツーリズムの振興を図るとともに、創業・起業、そして企業誘致を促進し、県内各地に様々な分野の魅力ある仕事の間を確保していきます。さらに、I o TやA I、5 Gなどの先端技術を積極的に活用し、地域課題の解決や将来を見据えた新たな産業の創出にも挑戦します。

また、地域の活性化に向けて、U I Jターンを促進していくことも大事です。特に、若年女性の転出超過が顕著となっている福岡において、新たに設置する交流拠点を積極的に活用するなど、きめ細かな情報発信や支援の充実を図っていきます。加えて、住み慣れた地域に住み続けたいという思いを叶える社会づくりにも取り組み、社会福祉法人やN P O等の多様な担い手が地域を支えるネットワーク・コミュニティの構築などに

力を入れます。

活力ある地域づくりのためには、女性の活躍が不可欠です。職場、家庭、地域など、様々な場面で、女性が輝き活躍できる環境づくりを推進します。

こうして、人を大事にし、仕事をつくり呼び込みながら、地域を活性化するためには、広域交通網の整備や県土の強靱化など、地域の発展を支える基盤整備も大変大事です。中九州横断道路や中津日田道路をはじめとする広域交通ネットワークの整備や、大分港大在地区におけるRORO船ターミナルの機能強化等、九州の東の玄関口としての拠点化を着実に進めていきます。特に、県土の強靱化については、県の国土強靱化地域計画と一体となった市町村の計画策定を加速するとともに、国土強靱化のための三か年の緊急対策後においても、地方が抜本的な対策を講じていけるよう、必要な予算の確保について、国に強く要望を行っているところです。

人口ビジョンの実現に向けた自然増対策や社会増対策は、いずれも高いハードルですが、地方創生は大分県からという気概で、新時代の大分県づくりに挑戦してまいります。

2 提出議案の説明

次に、提出しました諸議案の主なものについて、その内容を説明申し上げます。

(補正予算案の概要)

初めに、第百八号議案 一般会計補正予算（第三号）についてです。

今回の補正額は、三千六百二十二万九千円の増額であり、補正後の累計は、六千五百億三百八十九万九千円となります。

その内容は、先程申し上げた、県立病院の新生児集中治療室の増床のほか、公共工事の施工時期の平準化と、防災効果の早期発現に向け、六十億円の債務負担行為の設定等を行うものです。

(予算外議案)

次に、予算外議案について説明申し上げます。

第百十八号議案 大分県特殊詐欺等被害防止条例の制定について、及び第百十九号議案 大分県安全・安心まちづくり条例の一部改正についてです。今回のラグビーワールドカップでは、県民の皆さんの御協力の下、県警本部による警備等の的確な対応もあり、県民をはじめ、国内外からの大勢の観光客が、安全な環境の中で、安心して大会を楽しむことができました。こうした安全・安心なまちづくりをさらに推進するため、特殊詐欺等の被害から県民を守ることを目的とした新たな条例を制定するとともに、通学路等における児童等の安全確保についての規定の新設等を行うものです。

以上をもちまして、提出しました諸議案の説明を終わります。

何とぞ、慎重御審議のうえ、御賛同いただきますようお願い申し上げます。